

## 今日の聖書のことば

### 5月17日(日) 使徒言行録 22章

パウロはヘブル語で群衆に語った。いかに自分が救われたかを。それまで静かに聞いていた群衆が怒りわめき始めた。うごめく狼の群れと化した群衆は血を求めて叫びだした。

### 5月18日(月) 使徒言行録 23章

パウロはユダヤ人議会で弁明の機会を与えられたが、議会は紛争し、パウロは失望した。神はパウロを力づけられた。ローマでみ言葉を語るようになると言われた。兵士たちは暴徒がパウロを殺さないように、彼をカイザリヤに送った。

### 5月19日(火) 使徒言行録 24章

パウロはカイザリヤで拘置された。ユダヤの総督ペリクスの前で弁明する機会を与えられた。しかし、ペリクスはパウロから賄賂をもらおうと下心があって、2年間も判決を下そうとはせず、その間パウロは牢につながれていた。

### 5月20日(水) 使徒言行録 25章

ペリクスの後、フェストが新しい総督になった。フェストはユダヤ人の意を受けてエルサレムによって裁判を受ける意思があるかを尋ねた。パウロはローマの市民権を持つ者としてローマ皇帝カイザルに上訴したいと言った。

### 5月21日(木) 使徒言行録 26章

パウロはアグリッパ王に信仰の証しをした。それは彼の救いについての証しであった。話しを聞いた者たちは、パウロが無罪であること知った。しかし、それでも彼らはパウロをローマに送らねばならなくなった。

### 5月22日(金) 使徒言行録 27章

いよいよパウロはローマに護送されることになった。パウロのローマ行きは、あたかも人生行路のようであった。ローマへの途上でパウロが乗った船が嵐で難破した。しかしすべての人が神の助けにより無事にある島に打ち上げられた。

### 5月23日(土) 使徒言行録 28章

マルタ島に上陸したパウロは、そこに主の愛を如実に見た。この島でパウロは毒蛇にかまれながらも、何の害も受けなかった。ローマの獄舎においても神の国のことを語った。彼の生涯は、思いもの、言葉も、行動もすべてが神の国の証しであった。

---

## ろば No. 1967

2020年 5月 17日  
日本バプテスト立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ヨハネ3:3

はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。

「ホサナ」、イエスがエルサレムはやってこられたとき、人々は声を上げて喜び歌いました。「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」(マタイ21:9)と言って迎えました。ホサナ、とは詩篇118篇25節にでてくることばで「どうぞ我らをお救いください」という意味です。イエスが来られると、その場所をきよめてくださる。

この世のさわがしさに煩わされている人がみことばを聞いて祈りの家と変られる。謙遜と単純と信仰の象徴である子どもたちは、主のみもとに集まってくる困っている人や幼子のような心を持っている人は主の優しさにひきつけられる」。F. マイヤー牧師は私たちに語ってくれました。ニコデモはこの平安を得たいとイエスを訪ねました。世間の人から見れば、何の不自由もない、ほんとうに羨ましがられていたであろうユダヤ人たちの議員であったニコデモが、イエスに、心からの平安を得たいと訪ねました。その求めに対するイエスの答えは「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」でした。思いもかけなかったイエスの言葉にニコデモは戸惑いました。ニコデモは「年をとった者が、どうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」と問い返しますが、イエスの言葉は続きました。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。」と言われます。

パウロはテトスへの手紙で「神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。神は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、この聖霊をわたしたちに豊かに注いでくださいました。」(テス3:5-6)と言いました。私たちが神を信じ、御子イエスをしっかり受け止めることが出来るなら、それは起こります。

こんな話しを聞いたことはありませんか。

泥水をバケツの中に入れておくとやがて澄んできて、下に沈殿物がたまる。これが人の心の状態である。どんなに澄んでいるように見えても、一度バケツを動かすと、もとのように濁ってしまう。普段は教養のある紳士のように見えても、また上品で美しい人のように見えても、ひとたびその人の上に波風が立てば、そこに醜いほんとうの人間が現れてくる。したがって、救いは外見の変化でなく心から変化されたものでなければならないことを知るのです。

環境というバケツを変えるのではなくして、汚れの原因である沈殿物を取り除き、どんなに動かされても、いつも青く澄んでいるようにさせるのがほんとうの救いです。人間の心自体を変え、人を新しくつくりかえることが救いなのである。それをイエスがしてくださいました。

人がいかに英知を駆使して努力しても、心の沈殿物・罪を取り除くことは出来ません。それは神の業です。神はイエス・キリストを通して実現してくださいませ。イエスは「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」と言われます。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハ3:16)です。私たちがしっかり、神を信じその御心を受け止めて、十字架のイエスを信じて受け入れるなら、私たちはそこに答えを見いだすことが出来ます。パウロは「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます」(ロマ6:8)と語ります。

..... < 聖書の学び・祈禱会 > .....

散らされた人々は 使徒言行録8：1-8

- \* 聖書箇所を声を出して読む。
- \* 聖書から教えられたことを、30文字で書き留める。

議会とユダヤ人社会は、ステパノの殺害にとどまらず、エルサレム教会と全面的な敵対と迫害を生み、信徒は散らされました。結果、信徒による伝道が活発になりました。

「散らされてばらばらにされていった」先で、彼らは伝道をしました。イエスに救われた喜びを語らざるを得ませんでした。

フィリポは、ユダヤ人には差別感情が激しいサマリヤに下って行き、キリストの福音を宣べ伝えました。福音の種がまかれることには収穫が伴いました。病人が癒やされたとき、その町には大きな喜びが起きました。そこでフィリポの宣べ伝えた福音を多くの人々が信じました。散らされていった先々で起こった出来事が次々に報告され、宣教地域が一挙に拡大し、ユダヤの境界を突破しました。言葉に奇跡が伴うのは、初代教会の伝道の特徴、宣教の目標及び最終の実りは「大きな喜び」でした。



次週の聖書と説教 ルカ4：16-30 大いなる救いは